

令和7年7月26日

2024 年度「市民防災・減災活動公募助成」事業実施報告書

団体名 NPO 法人ハッピーライド

代表者・役職名 氏名 理事長 常田 貴清

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

視覚障がい者の避難方法と避難所生活を可能にする為の具体的なアクションと情報の提供

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

2009 年に前身となる任意団体を設立し、健常者と障がい者の壁をなくす活動を開始。2011 年の震災を機に「共に避難できる社会」の必要性を痛感し、2022 年より防災分野へ本格参入。2012 年に NPO 法人化。現在、正会員 16 名・賛助会員 45 名が所属。共生社会の実現を目指し活動中。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

特に視覚障がい者を中心とした要支援者は様々な理由で避難所に行くことを諦めている。他者への迷惑を懸念し、トイレの利用やパニック発作の問題に直面していることが要因として挙げられるが、特に緊急時に情報が得られず状況が把握できない福岡市の視覚障がい者とその家族を支援することを目的とする。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

視覚障がい者が安心して避難所への移動と生活を実現できる方法を模索する事業を展開。大阪市立阿倍野防災センター等で研修を受け、専門家から知識を習得。東日本大震災・熊本地震の聞き取りデータを活かして、音声動画やガイドブックを作成。視覚障がい者施設と連携し避難訓練を実施・改善。体験会や個別相談会を通じて意識向上を促進。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

成果(OUTPUT):避難訓練 4 回 個別相談会 2 回、避難所体験会 1 回、講演会 1 回

成果(OUTCOME): 視覚障がい者が避難方法や避難所生活に必要な知識とスキルを伝え防災意識が向上した。個別相談会や防災グッズの紹介、ハンドブックは安心と自助に関する具体的な準備を提供できた。

社会的変化(IMPACT): 地域社会全体で多様なニーズに対応する防災意識が高まり、インクルーシブな事前防災が進んだ。行政や防災センターにも視覚障がい者の避難の難しさが認知された。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

課題:視覚障がい者が直面する情報不足、移動の困難、避難所での孤立や制度の未整備は深刻な問題である。支援者が少なく負担が大きいのが課題である

展望:誰もが安心して避難できる社会を目指し、地域防災意識向上や福祉避難所の整備を推進する。

視覚障がい者と支援者の知識を増やし訓練を充実させ、自助、共助で命を守る仕組みを築いていく。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください

